市民の声がとおる議会を！県政を！

千葉県議会議員
ふじしろ政夫 と共に県政・市政を変えよう！

発行　ふじしろ政夫　　政務調査報告ニュース　２０１６年12月号
〒273-0122　鎌ヶ谷市東初富５－２４－５０　TEL & FAX　０４７－４４５－９１４４
Ｅメール　masao.fujishiro@zc.wakwak.com　　ホームページ　http://e-kamagaya.com/

オスプレイが千葉の空にやってきた！

オスプレイがついに木更津の空に・・・

来年１月から木更津駐屯地を沖縄の 24 機のオスプレイの整備拠点にしようとしている米軍と防衛省は、10 月 24 日（日）木更津市議会からの要請として、在駐の陸自ヘリＣＨ４７ＪＡとオスプレイＭＶ－22 を飛ばせて騒音比較をしました。騒音を体験してもらうとのことです。

市長など市役所の方が４名、市議会議員８名計 12 名がオスプレイに体験搭乗とのこと。（これでＭＶ２２の安全性を感じるのだそうです…？）朝８時半ごろ東京湾の方からオスプレイがあらわれました。“中の島大橋”のてっぺんで見ました。オスプレイがやってきた。「くるな！」「反対！」「帰れ！」と、それぞれ市民は自らの怒りの声を発しました。

二機が飛来し、何回も試験飛行をし、私たちの目の前を“固定翼状態”や“回転翼状態”にして通過。基地内ではホバリングを。
ＣＨ－４７ＪＡも飛びましたがオスプレイの騒音の方が重く、うるさかったです。

防衛省はＣＨ－４７ＪＡと変わらないと言っていますが、後日防衛省が発表した１０月２４日の測定結果でも、ホバリング時ＣＨ－４７では８４デシベル、オスプレイは９３デシベルだったのです。やっぱりウルサイ、低周波も発するオスプレイです。

騒音で生活が壊される。墜落の危険への不安もありますが、オスプレイは、日米軍事一体化の具体化そのものなのです。陸上自衛隊もオスプレイ１７機を購入しはじめています。横田基地にも空軍のＣＶ－２２オスプレイが１０機配備されます。木更津の整備拠点化は、認めるわけにはいきません。そのオスプレイを「比べてみたい」と初の千葉県入りを要請した木更津市議会は、何を考えているのでしょうか？搭乗までしてみようとする市長や議員は、オスプレイをそんなに千葉の空に飛ばしたいのでしょうか？

11 月 13 日には、木更津の「吾妻公園」にて 1300 人の市民が集まり、オスプレイはいらない！整備拠点化反対！の集会がありました。

沖縄高江のオスプレイヘリパッド建設に、中央即応集団の木更津第一ヘリコプター団のヘリコプターが派遣され、建設作業に参加しています。日米新ガイドラインでいう平時から戦時までの日米共同行動そのものです。

オスプレイは、沖縄県にも、千葉県にもいりません！

鎌ヶ谷医師会による甲状腺エコー検査始まる

福島県等で行われている健康診断の一つである“甲状腺エコー検査”を鎌ヶ谷市でも実施することになりました。１２月補正予算に 80.000 円を計上。印刷代２万円、エコー検査助成 3.000 円×20 件＝６万円です。福島県民健康調査に携わった医師により「かまがや診療所」で実施。
検査画像を見ながら医師が直接被検査者及び保護者に説明するとのこと。医師の人件費、交通費がかかりますが、地域貢献として鎌ヶ谷医師会が負担するとのことです。ありがとうございます。
平成 29 年度以降は、年間 100 人を見込み 322.000 円を見込んでいるとのこと。

沖縄愛楽園の戦跡を見て・・・・・

沖縄名護市屋我島区にあるハンセン症「国立療養所沖縄愛楽園」は、30万632㎡のひろさがあり、今、169人が入療しており、その平均年齢は82.8歳とのこと。学芸員から説明をうけました。

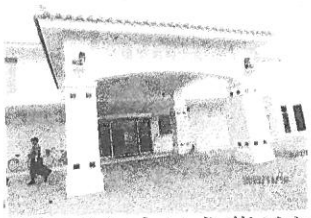
戦争中昭和19年10月10日の空襲から300名程がなくなっているが、被弾したのは1名。ほとんどが、栄養失調や衛生の悪さからのマラリア、セキリで死亡したとのこと。空襲にそなえて約５０ヶ所の防空壕が崖に掘られました。

昭和１９年３月に皇軍が１０万人沖縄に入ってきて、ハンセン症の患者を島中からかりあつめていくことが行われ、愛楽園４５０床のところに９００人が隔離されたとのこと。

貝がらだらけの地層をつるはしなどで掘るのだが、末梢神経の感覚がなくなっている患者さんたちは、壕を掘ることで空襲での死亡はなくなったが、体に傷等をつくり、戦後にかけて多くの人々が身体的障がいをもってしまったとのこと。元気のない方は壕の中でピンポン玉位のオニギリ２ケ（１日）で暮さなければならなかった。

学芸員さんからは「ハンセン症の感染力は弱く、衛生状況、栄養状況が良ければ発病しない」「すでに昭和18年頃には、病にきく薬“プロミン”が発表されていた。」と説明されました。

「澄井小中学校跡」での説明を聞いて、「人が人を差別すること、平等とは何か？」を考えさせられました。



1939年「愛楽園」小中学校は、1951年に公立学校となった。

そして1980年休校となるまで100名の子どもが、プロミンという薬があるのに戦後発病していたとのこと。

「有菌地帯」「無菌地帯」と壁と丘で区切られた状況の中で、子ども達は小中学校生活をおくった。先生は完全防備の白衣で対応・・・・・

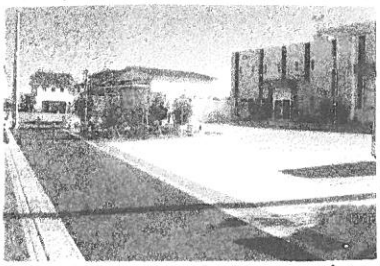
卒業証書はあるが、園から外へ出るとき、楽しかったこともある学校時代の物は焼却していくとも語られました。履歴書に“澄井小学校卒”と書けない世間があったのです。1000人のうちはっきりカミングアウトした人は10人もいないとのこと。ライ予防法が廃止されて20年たち補償の時効がくるが、補償申請をしていない方が多いとのこと。又、沖縄の「平和のいしじ」には当初ハンセン症でなくなった人々の名前がなかったとのこと。親族が申告するので、なかなか語れないという現実があったのです。

ハンセン症への理解が少しづつ進んでも、感染力が弱いことが分かっても、やはりこれまでの歴史の上から差別の構造が抜け切れていない社会故の課題をどう解決していくのか？事実を示し、人と人とが互いに個人の尊厳を尊重することができるようになりたいものです。

～鎌ケ谷まちかど情報～

くぬぎ山歩道整備事業の進捗状況は？

くぬぎ山交差点から、新京成踏切を含んだ形の歩道整備事業が、平成26年度から始まっています。全長460m（両側歩道は900m）事業費15億円。平成32年度完成を目指して今、物件の調査と各地権者との交渉を続けています。平成27年には、くぬぎ山消防署前30mを歩道整備。



平成27年7月27日には、くぬぎ山コミニティーセンターで地元の方々への事業説明会も開かれました。

平成28年度には、踏切部分の設計を新京成に委託すべく協議中。進捗状況は事業費ベースで1億4000万円。（県の説明）安心して歩ける踏切・歩道にしたいものです。

二和川と大柏川第二調節池

真間川水系の治水事業である、大柏川第二調節池は17ha。約90%の15haが用地買収済。上池の部分から掘削が始まっており、平成27年は9000㎥が掘られ、平成28年度は掘削土砂の搬送用道路もつくられ、さらなる掘削も検討中とのこと。（県の回答）

その調節池につながる二和川の洪水対策事業は、現在河川拡幅の為に境界線の確認など測量をし、地権者様にアンケートをしているとのこと。（鎌ヶ谷市の回答）バイパス工事は船橋市との協議ができしだい始めたいとのことです。二和川の事業は社会資本整備“防災安全交付金”の中の準用河川改修事業としておこなわれ、5年間で24億円（交付対象上限）。総事業費は37億円です。鎌ヶ谷市の事業と県の事業とが連携して一日も早く安心できる街・馬込沢にしたいですね。